

平成3年11月6日

小さな親善大使が大活躍

豊島区立 要町小学校日ソ国際交流会

6日、豊島区立要町小学校(難波明治校長・要町2-3)に、ロシア共和国の8歳から17歳の児童生徒など44名が表敬訪問に訪れた。同小学校では、児童や先生たちが準備した手作りの歓迎会や、学校給食などで接待。全校児童一人ひとりが小さな親善大使として大活躍していた。

訪問した団体は、ウラジオストック日本クルーズ(沿海州平和擁護委員会)一行。フェードワ・ラリーサ団長を先頭に、児童・生徒39名、引率者5名(団長含む)の合計44名。同州平和擁護委員会が、国際理解教育の一環として主催したもの。5日に晴海に入港し、9日までのスケジュールで「隣国・日本」の首都東京を見学する予定。

この日は、正門にて全校児童(320名)が出迎える中、午前10時過ぎに訪問団が到着すると、同校は、日ソの新しい時代を象徴するかのような親善ムードに包まれた。

その後、体育館を会場に、児童代表による歓迎の挨拶、プレゼントの交換をはじめ、手作りのお神輿や、八木節を披露し、歓迎の気持を精一杯表現。

また、同校自慢の『要町音頭』を、ロシアの子供たちと一緒に踊ったり、ロシア民謡「トロイカ」を全員で合唱したりと、なかなかの盛り上がりを見せていた。

11時30分過ぎからは、会場を各教室に移して、折り紙やけん玉、おはじきを使った交流、お昼には、空き教室を利用してつくられた和室やランチルームでの給食交流が行なわれた。

訪問団は、「ぜひ、今度はウラジオストックにいらしてください」と児童たちに声をかけ、さわやかな笑顔を残して午後1時に同校を後にした。

問合せ 要町小学校